

「四季・植物」 46 うるい

学名 Hosta Montana F. Maekawa
ユリ科ギボウシ属の多年草
名前の由来は、様々な説がありはっきりしない。

郷土資料から見た「うるい」のあれこれ

「うるい」の名で知られる山菜であるが、正しくは「オオバギボウシ」というギボウシの種類のひとつであり、柏崎ではウルイッパ、ウレナ、サワナとも呼ばれる。

ユリ科の山菜はクセが少なく食べやすいが、「うるい」は独特のギンギンとした食感があり、「巻き葉が最高だが、少し伸びても、さっとゆでて水に冷ませば甘みや又メリが出る」（「新潟の山菜料理」といわれ、おひたしやあえもの、汁の実にして食べられる。

塩漬けや粕漬けにするほか、葉柄だけをゆでて天日に干したものはヤマカンピョウといわれる保存食となる。

ギボウシは観賞用として栽培もされ、庭や池の周囲に多くの園芸品種が植えられている。花の形が橋の欄干を飾る擬宝珠ぎぼしに似ているところから、ギボウシという名前が付いたという説が有名である。

「うるい」と、有毒のバイケイソウ、コバイケイソウの若い芽は似ているので、採取するには注意が必要である。

参考資料

| | | | | | |
|-----------------|--------------|------|--------------|----------|------|
| 「柏崎市史資料集 民俗篇」 | 柏崎市史編さん委員会編 | 1986 | 「日本大百科全書」 | 小学館発行 | 1994 |
| 「新潟の山菜料理」 | 桜井薫著 | 1989 | 「図説 花と樹の大事典」 | 植物文化研究会編 | 1996 |
| 「山菜・木の実おいしい50選」 | 戸門秀雄著 | 2000 | 「草木花歳時記 夏」 | 朝日新聞社 | 1999 |
| 「農業技術大系-11」 | 農山漁村文化協会 加除式 | 1988 | | | |